

夏休みはトリを見に

●野鳥の名を知る楽しみ

そつと、静かに――

いま、森林や高原では、繁殖を終えたトリたちの美しい姿や声、見たり聞いたりすることができます。秋風とともに暖かい南の国へ去って行く夏鳥をはじめ、たくさんの種類のトリたちを、あなたも観察してみませんか。まず、心がけの第一。不用意な動作や物音を出して、トリを驚かして飛び立たせてはいけません。野鳥がヒトにとって遠い存在であるというのも、草花や昆虫のように身近に見ることができないからで、それはまた、いまだあまりにヒトがトリたちをおどしてきたからなのです。トリは動くものに対して非常に警戒しますから、トリがいたら、私たちはなるべく動きを少なくして観察するようになります。双眼鏡や望遠鏡を用意するとよろしいでしょう。

身近なトリ――見どころをつかむ

見わけの基本となるトリをよく観察しましょう。たとえばスズメ、カラス、ムクドリなど、私たちのいちばん身近なトリをよくおぼえておき、新しいトリに接したとき、スズメとくらべて大きい小さいかというふうに、比較できるようにします。とくに庭に来る野鳥を毎日観察するなどはいい方法です。

また、どんなトリでも、そこを見たら名前がわかるという特徴を持っています。クチバシ、色、動き、歩き方、飛び方など、

各図にあるような見わけのポイントをつかんでしまえば、面白さも増してきます。

このほか、鳴き声も、たいへん特徴があって見わけのに役立ちます。トリが鳴いたら、2～3人に、何と鳴いたかきいてみましょう。ピー、チー、キー……いろいろな答えがでています。ひとつの声でも、きく人によって違います。自分のきいた通りにノートにつけて、声の高低や音質などを記録しておく、役に立ちます。

それから色彩ですが、トリはたいへん特徴となる模様や斑紋を持っています。翼の白い部分はどこか、腰の白はどこか、腹の白い模様はどこか、など、トリの身体の部分部分の色の特徴も、よく観察してつかんでおきましょう。

場所と時期

どんなところでそのトリを見たか大切です。山、海――山なら林か、岩場か、草原か。林なら落葉が常緑か、針葉樹が落葉樹の林の上の枝か、それとも下草か――なるべく細かく観察します。海でも、波の静かな内湾の岸近くか、波の荒い岩の多いところか、または陸からずっと離れた洋上かということ、すんでいるトリの種類も違ってきます。

何年何月何日の記録か、ということを書

く習慣をつけましょう。時期によってわが国にいるトリとないトリがあることはよく知られています。渡りの確認――その初めか終わりの確認も、観察の日の記録からわかります。

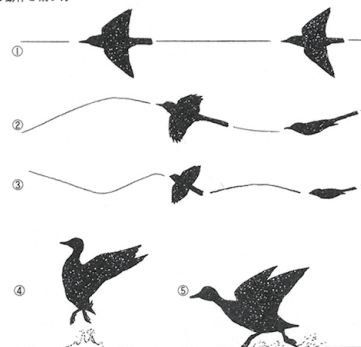
――野外を自由に飛ぶトリを観察し、トリたちの世界の理解を深めたいものです。



財団法人日本鳥類保護連盟
サントリー株式会社

●この広告は、財団法人日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリー株式会社がシリーズとして制作するものです。

●動作と飛び方

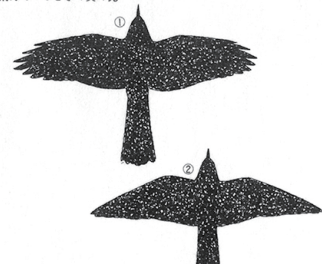


まっすぐに飛ぶか、波形で飛ぶか、同じ波形で飛ぶか、大きい小さいか、浅いか深いかをよく観察しましょう。①ムクドリ、②ヒヨドリ、③カワラヒワです。また、コアジサシやチョウゲンボウのように、空にじっと停まることができるという、ヘリコプター願望の飛び方ができるトリもいます。はばたきも、カモメのようにゆっくりか、マゲモのように速いのかも、見分けの上では大切なことです。

また、セキレイが尾を上下に振ったり、ジョウビタキがおどろきたり、モズが尾をまわしたり、特徴ある動作でも見分けられます。飛び立ち方でも、④のコガモと、⑤のスズガモでは、こんなに違います。

イラストレーション：新内正幸

●飛んでいるときの翼の先



飛んでいるときには、翼の先はとがっていますか、それともまるいのですか。①はヒヨドリ、②はムクドリです。翼の縁や先には、はっきりした特徴がありますね。



●尾の形

尾の形にも、それぞれ特徴と違いがあります。あなたはいつ、わかりますか。

①ツバメ ②ヒヨドリ ③カワラヒワ ④オナガ



●形と姿勢

鳥のグループを見分けるのに役立ちます。サギとカラスの形の違いがわからない人は多いでしょう。もっと細かい違い、スズメとカワラヒワとホオジロの違いさえ、注意しているとわかってきます。イカルのようにずんやりしたもの、サンショウクイのようにぱりぱりスマート、また、とまっているときの姿勢の違いも注意しましょう。コサメビタキは直立してとなり、センドイシイは水平にとまります。